

短歌

月光に淡淡うかぶさるすべり
 スマートな幹真つ白な花
 巡り来し七十二回目終戦日
 次の時代こそ平和を誓う
 応援する今日取組の両力士
 どちらにしても目を閉じて見る
 ひたすらに家を守りて九十年
 あつき想いの戦没者の妻
 狭き庭気儘に伸びし木の枝を
 亡夫のしぐさを真似て剪りゆく
 卓上にひまわり三輪につこりと
 私のつぶやき聞いててくれる

赤星 文恵
 阪野 章子
 坂本 竹子
 荒木 智子
 石山 幸子
 坂口志げ子

かなしき原俳句会

裏庭にはや鳴き出せし轡虫
 新涼や歩幅の広くなりにけり
 新しき下駄ポストまで今朝の秋
 いただきし命に感謝墓洗ふ
 轡虫ロックンロールフェスティバル
 豊作の稲田を照らす月明かり

きよみ
 康子
 弘子
 淑
 誠一
 良一

菊水俳句会

稜線の四方に迫る星月夜
 白壁に揺らぐ鳥影涼新た
 会ひたしと友の伝言秋の宵
 秋冷や病の友の部屋帽子
 文月や野菜と届く姉の文

謙三
 貞子
 しん子
 淑乃
 しん子

肥後狂句

なんなつと 理屈つけても断らず
 なんなつと 作らにや土地の余つとる
 なんなつと せでにゃおられん質たいね
 なんなつと 趣味の狂句で惚け防止
 気さくな人 何の垣根も持たっさん
 気さくな人 まわりに笑顔うりまかす
 口だけは 病い知らずでよう動く
 口だけは 何べん騙しなはったか
 口だけは ずたく夢は果てしなく

井上りんどう
 瀬上 歌子
 後藤 撫子
 福永すみれ
 庄山 道章
 高木せいや
 池田 茜
 二瀬 桔梗
 石原かわせみ

人権の窓 17



地域人権教育指導員

緒方正雄

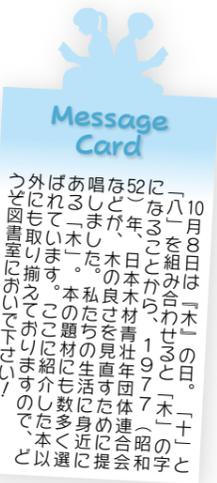
「性的少数者に配慮を」

「男性が男性を、女性が女性を好きになる」
 ことに對しては、根強い偏見や差別がありま
 す。からだの性と、こころの性との食い違いに
 悩みながら、周囲の心無い好奇心の目にさらさ
 れたりして苦しんでいる人々がいます。
 一昨年の六月、県内の高校に在籍する戸籍上
 は女性で、こころは男性である優太さんから
 「自分らしく生きていきたい」とこれまでの自
 分やこれからの思いを聞かせてもらいました。
 高校2年 優太
 僕は、幼いころから男の子とばかり遊んでい
 て、これが普通だと思っていました。学校へ入
 学すると女の子としてスカートをはくことにな
 り、とても嫌でした。5年生の時初めて女の子
 が好きになりましたが、女の子の中では男の子
 が好きだと嘘を言っていました。思春期を迎え
 女性らしくなることが嫌でした。月経の話が恥
 ずかしくなりました。
 中学校でも女の子が好きになり、手紙を出
 しましたが、すべて断られました。そして、告
 白したことがいつの間にかバレて、みんなから
 からかわれました。女である自分が嫌になり、
 自殺まで考えたことがありました。制服のス
 カートをはくことが苦痛で、不登校になりました。
 3学期に学校で性同一性障害についての講演が

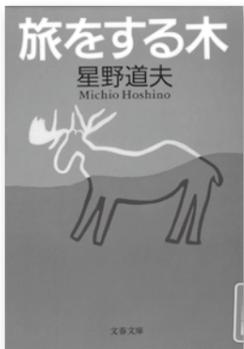
あり、担任と養護教諭に告白をしました。「そ
 うじゃないかと思ってたの」と優しく応じてく
 れました。二人の前だけでも本当の自分を出せ
 ることがうれしかったです。その後、両親に手
 紙で告白し、母は、「生きててくれたらそれで
 いい」と。父は、「お前が男でも全然いい」と
 受け入れてくれ、とてもうれしかったです。
 高校1年生の冬、校内弁論大会で「男として
 接してほしい」と告白をし、みんなが男子とし
 て認めてくれたことが一番うれしかったです。
 「男は女に優しく」そんな思いから「優太」と
 名乗り始めました。
 皆さんにお願いしたいことは、助けを求める
 性的少数者の声に耳を傾けて、苦しみや悩みを
 知ってもらい、受け入れてほしいのです。そし
 て、私たちが、安心して生きることのできる学
 校や社会にしてほしいのです。「話してくれて
 ありがとう。一緒に考えよう」と僕たちの支援
 者になってほしいのです。「性は一人ひとりの
 個性」。どのような性であってもみな同じよう
 に尊重される社会であってほしいと強く願って
 います。
 性的少数者当事者の苦しみや悩みを初めて
 聞かせてもらいました。人には多様な性のあり
 方があることと、彼らの問題は、多様な性を理
 解できない多くの人々の差別意識や偏見によっ
 て引き起こされている社会問題なのだと思いま
 した。まず、私たち一人一人が多様な性を理解
 することから始めていきたいと思えました。

図書室 本紹介

中央公民館 図書室より



『旅をする木』



広大な大地と海に囲まれ、正確に季節がめぐるアラスカ。作者が出会ったアラスカ先住民の人々や、開拓時代にやってきた白人たちの生と死が隣り合わせの生活を、静かにかつ味わい深い言葉で綴った短編集です。表題の「旅をする木」他、32編が収められています。

星野 道夫著 / 樹文書庫

『木のすきなケイトさん』



ジョゼフ・ホプキンス著 / 樹B出版
 ケイトは森の中で遊ぶのが大好きで、木がともだち。木の勉強がなにより好きでした。けれど、大きくなって木のない砂漠の町に暮らすことになり、ケイトは世界中の園芸家に頼み、砂漠でも育つ種を送ってもらい苗木にしました。それが町中に植えられ、やがて緑いっぱい美しい町になりました。これは、本当にあった、木の大好きなケイトさんのお話です。

ジョゼフ・ホプキンス著 / 樹B出版

『木はいいなあ』



ユードリイ著 / 樹文書庫
 自然と関わる子どもたちの日常が失われていくのを嘆き、作者自身が幼い日に経験した木との素晴らしい生活を、子どもたちにも味わってほしいという願いが込められた絵本です。発表されてから40年以上経っていますが、今の子どもたちにもぜひ読んでほしい一冊です。

ユードリイ著 / 樹文書庫

10月リサイクル体験受講者募集

申し込み先：クリーンパークファイブ
 住所：玉名郡長洲町大字名石浜42番地1 ☎0968・78・4433

リサイクルプラザのしん

日	時間	講座名	講師名	募集人員	募集期間	準備するもの
26日(木)	午前9時30分 ～午後3時	帯リフォーム 「帯で作るミニバッグ」	土山千代子氏	10人	電話受付	①裏地用の綿の布 (70cm以上) ②裁縫道具 ③筆記用 ④弁当 ⑤材料費1,300円 ※帯は先生で用意されます。
					2日(月) 午前9時～ 13日(金) 午後4時	
					希望者多数の場合の抽選日 19日(木) 午前10時	

受付方法
 電話にて受付を行い、受講希望者多数の場合は抽選となります。
 その場合は、電話にてご連絡いたします。(必ず受付時、連絡の取れる電話番号をお願いします)
 電話がない場合は、受講決定ですのでリサイクル体験講座開講日においでください。